

学級活動学習指導案

日時：令和3年10月4日（月）第5校時

場所：3年1組教室

1 題材名 LINE×静岡大学「楽しいコミュニケーション」を考えよう！基本編

2 題材設定の理由

(1) 教材観

「情報モラル教育」を行っていくうえで、生徒の現実世界でのコミュニケーションスキルと併せて、「ネットコミュニケーション・リテラシー」を育てていくことが大切である。本教材は、コミュニケーションを行う際に重要となる「自分と相手との考え方や感じ方の違い」や、ネットの特性として、「相手の表情や雰囲気かわからないので、誤解が生まれやすい」ことに気が付き、上手にコミュニケーションをとって行くには、相手の気持ちや価値観を尊重し、配慮することが大切であることを体感できる教材である。

(2) 生徒観

(略)

(3) 指導観

本授業では、カード教材を活用しながら、自分と相手との考え方や感じ方に違いがあることに気付かせることで、上手にコミュニケーションをとるためのポイントについて考えさせたい。また、ペア学習を通して、自分の友人関係を振り返り、生徒が「自分事」として問題に向き合いながら考えることで、「当事者としての自覚」を促したい。

3 本時の目標

コミュニケーションを行う際に重要となる、自分と相手との考え方や感じ方の「違い」に気が付き、上手なコミュニケーションのポイントについて考えることができる。

4 研究主題との関係

視点1 情報モラルに関する生徒の実態を生かした学習活動の工夫

カード教材を活用し、他者と比較することで、自分と相手との考え方や感じ方に違いがあることに気付かせる。

視点2 「自分事」として考え、判断する学習活動の工夫

友人同士の「嫌だと感じること」を比較することで、どんなトラブルが起きる可能性があるか考えさせる。

5 参考資料

・LINE×静岡大学「楽しいコミュニケーションを考えよう」基本編

※本授業で使用したカード教材の著作権等の知的財産権は LINE 株式会社に帰属します。事前に教材申込を行い、LINE の HP から無料でダウンロードしました。

6 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	◆指導・支援の留意点 ◇研究の視点 ◎評価
導入	<p>1 友達に言われて「嫌だな」と感じる言葉を考える。</p> <p>2 学習課題を確認する。 「上手なコミュニケーション」をとるためのポイントは何だろうか。</p>	5	一斉	<p>◆ロイロノートでアンケートを作成しておき、5つの言葉から選択させる。選んだ理由もロイロノートで入力、提出、共有させる。</p> <p>◆それぞれで「違い」があることを意識させる。</p> <p>◆特にネット上において、文字だけでは感情が伝わりにくく、誤解が生じやすいことを確認する。</p>
展開	<p>3 友達にされたら「嫌だな」と感じることを考える。</p> <p>4 カードの並びを比較し、どんなトラブルが起きる可能性があるか考える。 (1) AさんとBさんの例について考える。 ・写真を公開されることが嫌じゃないBさんが写真を公開してしまい、写真を公開されることが嫌なAさんが嫌な思いをする。 ・話好きなAさんがダラダラと長話をして、なかなか会話が終わらないことが嫌なBさんが嫌な思いをする。 (2) 友人同士でどんなトラブルが起こりうるか考える。</p>	15 20	<p>個別 ↓ 班 ↓ 一斉</p> <p>個別 ↓ ペア ↓ 一斉</p>	<p>◆5枚のカードを嫌な順に上から並べ、「ここからは絶対に嫌」というところに間をあけさせる。並び順はロイロノートで共有させる。</p> <p>◆なぜその順番にカードを並べたのか理由を発表し、その人の価値観を共有させる。</p> <p>◆ネットでは相手の顔が見えないから、表情や感情が分からず、嫌がっていることに気付にくいことを確認する。</p> <p>◇カード教材を活用し、他者と比較することで、自分と相手との考え方や感じ方に違いがあることに気付かせる。(視点1)</p> <p>◎コミュニケーションを行う際に重要となる、自分と相手との考え方や感じ方の「違い」に気付くことができる。(ロイロノート、発表)</p> <p>◆AさんとBさんで正反対の結果であることに着目させる。</p> <p>◇カード教材を活用し、友人同士の「嫌だと感じることを比較することで、どんなトラブルが起きる可能性があるか考えさせる。(視点2)</p> <p>◆ロイロノートで提出された、そのペアの「嫌だと感じることを電子黒板に表示し、比較したことをもとに発表をさせる。</p>
まとめ	<p>5 実際に起こり得る場面設定から、その時のトラブル回避の対応と、上手なコミュニケーションのポイントについて考える。</p>	10	一斉	<p>◎上手なコミュニケーションのポイントについて考えることができる。 (ロイロノート、発表)</p> <p>◆生徒たちの考えをつないでまとめる。</p>

第1学年1組 道徳科指導案

日時：令和3年12月20日（月）第5校時
場所：1年1組教室

1 主題名 ルールを守る工夫 【C－（10） 遵法精神、公德心】

2 教材名 「学校配布タブレット端末についてのアンケート結果より」
○デジタル庁「タブレットについてのアンケート」2021年7月1日～31日実施
○『東京新聞』アンケート2021年10月17日掲載記事

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

1人1台のタブレット端末が配付され、学校生活における子ども達のICT環境はこの数ヶ月で劇的に変化を遂げた。生徒のスキル習得については順調に進んでいる一方で、情報モラル・リテラシーに関しては、“デジタルのよき使い手”になるための課題が多い。『GIGAスクール構想に関する教育関係者へのアンケート結果及び今後の方向性について』（デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省発表・9月）の「タブレットについてのアンケート」結果（児童生徒約21.7万件回答）によると、「タブレットを使う上で大切なこと」について、小学生は「ルールを守ること、先生の意見を聞くこと」を重視するが、中高生では「活用機会の増加や情報リテラシー」を重視する傾向に変化していく。単純に「ルールは守るべき」という段階から、なぜそのルールがあり守る必要があるのかを考え、よりよい社会を作るために自発的にモラルの高い行動を選択できるようにしたい。その際、タブレット利用に留まらず、社会の構成員として、普遍的に大切にすべき価値の存在にも気付かせる指導を工夫したい。

(2) 生徒の実態（生徒観）

(略)

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

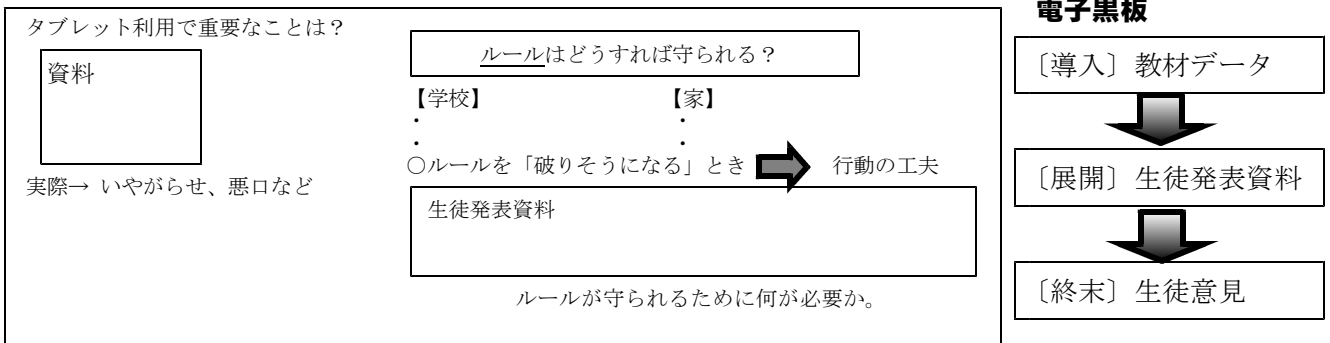
前述のデジタル庁アンケート結果では、児童生徒向けの『国としての考え方』で、タブレットについて「先生が一方的にルールを決めるのではなく、子ども達と一緒に考えながら、なぜルールが必要なのか、どのようなルールが必要なのか」を中心に話し合いを行うことを推奨している。その一方で、本校より先にタブレット配付が実施されていた他の自治体では、タブレットを使いたいじめや悪ふざけにより、学校側が利用を制限するなどの対応が取られたケースもある。本授業では、これらの情報を資料として生徒に提示し、当事者としてどうとらえるか、意見を引き出していきたい。その際、『SNSノート（情報モラル編）』（2021年改訂版）「タブレット・パソコンを上手に活用しよう」から、生徒の活用実態に即して学校と家の2場面を選択・設定し「ルールを破りそうになるとき」を具体的に考えさせたい。当事者だからこそ実感している必要なルールや課題を議論させることを通して、単なるスローガンではない、よりよい使い手としての行動実践を考えさせる授業展開を工夫したい。

4 本時のねらい

タブレット端末を使う学習者として、そのルールや問題点を話し合うことを通して、よりよい社会をつくるためにどのような行動を選択すべきか、道徳的な心情を育てる。

5 研究の視点 【視点1】情報モラルに関する生徒の実態を生かした学習活動の工夫
【視点2】「自分事」として考え、判断する学習活動の工夫

6 板書計画



7 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問○補助発問・予想される生徒の反応)	時間 形態	◆ 指導・支援の留意点 ◇研究の視点 ◎ 評価
導入	1 デジタル庁アンケート結果を確認する。 ・タブレットではルールが大切だと思っている小中学生が多い。 2 新聞社アンケート結果を確認する。 ・タブレットのルールを守らずトラブルになったり制限が大きくなったりしている学校がある。 3 本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ルールはどうすれば守られるのか。 </div>	10 一斉	◆結果が可視化された資料をロイロノートで個人用タブレットに配付し、初見の印象を自由につぶやかせて概要をまとめる。 ◆1と同様に資料を配付して教師の範読と解説により内容をつかませる。 ◇1で確認した「ルールは守るべき大切なもの」という価値を揺さぶる身近な資料を提示し、価値の実現の難しさを自分事として捉えさせ、課題解決の意欲を高める。(視点2)
展開	4 タブレットのルールについて考える。 ○学習用タブレットにはどんなルールやマナーが必要か。 【学校で】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の指示にしたがう。 ・人の悪口を書かない。 【自宅で】 <ul style="list-style-type: none"> ・大切に扱う。 ・長時間使わない。 ・変なサイトにつながらない。 5 ルールを「破りそうになるとき」を考える。 ○ルールを「破りそうになるとき」はどんなときか。 【学校で】 <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に持っているとき ・自分の意見を書くとき 【自宅で】 <ul style="list-style-type: none"> ・課題が終わったとき ・夜、自分の部屋にいるとき 6 5の場面での具体的な行動を考える。 ◎ルールを「破りそうになるとき」を防ぐには、どんな工夫が必要か。 【学校で】 <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間は開かない。 【自宅で】 <ul style="list-style-type: none"> ・リビング学習にする。 ・自分の部屋に持ち込まない。 ・防ぐための行動が思いつかない。	5 一斉 10 個別 ↓ 班 15 班 ↓ 一斉	◆『SNSノート』「タブレット・パソコンを上手に活用しよう②」から、生徒の活用実態に即した項目を選択し、2のトラブルに対して場面を分けてルールやマナーを考えさせることで、より具体的なイメージをもたせる。 ◆各項目に対して自由な雰囲気発言させ、意見をまとめていく。 ◇4で確認したものが守られないおそれのある場面を実際の生活から想起させ、付箋紙に書かせる。(視点1) ◆考えをまとめやすくするため、学校と自宅で付箋紙の色を分ける。 ◆KJ法で課題となる場面を明確にし、解決のための行動の工夫を具体的に考えさせる。 ◆工夫が具体的でないものを指摘し、揺さぶりをかける。 ◆班で解決できないものは、解決できない課題として発表させる。 ◆発表方法のヒントカードをロイロノートで配付し、発表者を支援する。 ◆「授業中の意見交換のときのルール破り」など、個人の心情次第で防げるものについての意見も大切に扱う。 ◎実際の生活をふり振り返りながら、ルールを「破りそうになるとき」を具体的に考え、課題を解決しようとしている。(付箋・話し合い)
終末	7 学習をふり振り返り、自分の考えをまとめる。 ○ルールが守られるために何が必要か。 ・ルールが大切だと思う心と、破りそうになるときを防ぐための行動が必要だと思う。 ・「破りそうになるとき」にならないように気をつける。 ・行動も大切だけど、結局その人の心がよくないとだめだと思う。	10 個別 ↓ 一斉	◆ワークシートに記入させ、ロイロノートで写真を提出させて意見の共有を図る。 ◆タブレットのルールが、日常生活のルールやモラルと重なることに気付かせ、よりよい社会を作るための行動選択とそれを支える心の在り方を考えさせたい。 ◎ルールを破らないための行動選択と、それを支える法令遵守の心情の係りに気付き、自分なりに考えをまとめている。(ワークシート)

道徳ワークシート
2つのアンケート結果から考える

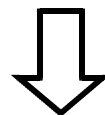
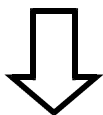
氏名 _____



[デジタル庁アンケート結果より一部抜粋]

学習用タブレットのルールやマナーとは？

【学校で】		【家で】
-------	--	------



1

【学校で】	【家で】
-------	------

2

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
-------------------------------	--

先生から

